

永良部島産(図3)で二紋型の赤褐色紋がさらに拡大し、左右の紋が中央でほぼ近接する個体が見られた。これがさらに拡大すると縁黒型、究極が赤褐色型ということになるかと思う。和名の元になった縁黒型は比較的少ないようである。沖永良部島からも新記録となると思われるので、併せて記録しておく。

1 ex., 鹿児島県沖永良部島知名, 27. VI. 1975, 渡辺昭彦採集, 今坂同定・保管。

貴重な標本を恵与頂いた渡辺昭彦氏に感謝申し上げます。

引用文献

- 林 匡夫・森本 桂・木元新作, 1984. 原色日本甲虫図鑑 (IV). 438 pp., 72 pls. 保育社, 大阪.
木元新作・滝沢春雄, 1994. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 539 pp., 88 pls. 東海大学出版会, 東京.
滝沢春雄, 2012. 日本産ハムシ科生態覚書 (6). 神奈川虫報, (177): 33-51.

(内藤準哉 260-0001 千葉市中央区都町1-48-16)
(今坂正一 830-0037 久留米市諏訪野町1736-3)

【短報】沖縄県渡名喜島からのフチトリアツバコガネの記録

沖縄諸島に属する渡名喜島は沖縄本島の北西約60 kmの海上に位置する非常に小さな有人島の一つである(面積:約3.74 km²)。同島におけるコガネムシ類の記録は極めて少なく、これまでにわずか3種が確認されているに過ぎない(藤岡, 2001; 井上, 2013)。筆者らは、2018年夏に渡名喜島で昆虫調査を行った際に、同島初記録と思われるフチトリアツバコガネ *Phaeochrous emarginatus emarginatus* Castelnau, 1840 (アツバコガネ科 Hybosoridae) (図1)を採集したので、ここに報告する。

フチトリアツバコガネは、灯火や腐肉を用いたベイトトラップによく誘引されることが知られている(Kuijten, 1978; 越智, 2012)。今回得られた個体も同様に集落内の街灯下とハブ *Protobothrops flavoviridis* (Hallowell, 1861)の死骸から得られたものである(図2-3)。

2 exs., 渡名喜村集落, 18. VII. 2018, 金子採集・保管(灯火採集); 2 exs., 渡名喜村集落, 1-2. IX. 2018, 吉武採集, 金子保管(灯火採集); 4 exs., アンジェーラ浜, 2. IX. 2018, 吉武採集, 金子保管(ハブの死骸より)。

本種は東洋区全域に広く分布しており、国内か



図1. 採集されたフチトリアツバコガネ。

らはこれまでに四国, 九州, 五島列島, 屋久島, 吐噶喇列島(中ノ島, 宝島, 小宝島, 平島, 悪石島), 奄美大島, 沖縄諸島(沖縄島, 伊平屋島, 阿嘉島, 久場島, 久米島, 粟国島), 宮古諸島(宮古島, 伊良部島, 下地島, 大神島, 水納島, 多良間島), 八重山諸島(石垣島, 西表島, 竹富島, 小浜島, 鳩間島, 与那国島)

の南西諸島全域で確認されている(藤岡, 2001; 細谷ら, 2011, 2016; 越智, 2012; 楠井, 2012, 2016, 2017a, 2017b, 2018a, 2018b)。植生の乏しい小島嶼からも多く記録されていることから、本種は高い適応能力を有していると考えられ、今後、未調査地域のコガネムシ相の解明が進むにつれて、その分布域はさらに拡大するものと思われる。



図2. フチトリアツバコガネが得られたハブの死骸(吉武撮影)。



図3. ハブの死骸を摂食中のフチトリアツバコガネ(吉武撮影)。

引用文献

- 井上暁生, 2013. 久米島および渡名喜島のケバコフキコガネについて. 鯉角通信, (26): 16-17.
- 越智輝夫, 2012. アツバコガネ科. pp. 43, 185-186. 岡島秀治・荒谷邦雄 (監修) 日本産コガネムシ上科標準図鑑, 444 pp., 学研, 東京.
- Kuijten, P. J., 1978. Revision of the Indo-Australian species of the genus *Phaeochrous* Castelnau, 1840 (Coleoptera: Scarabaeidae, Hybosorinae), with notes on the African species. Zoologische Verhandlungen, 165: 3-42.
- 楠井善久, 2012. 琉球列島の小島嶼におけるコガネムシ上科の分布ノート 5. 鳩間島. 鯉角通信, (24): 55-56.
- 楠井善久, 2016. 琉球列島の小島嶼におけるコガネムシ上科の分布ノート 6. 水納島 (多良間村) 2015 年の記録. Kogane, Tokyo, (18): 67-72.
- 楠井善久, 2017a. 琉球列島の小島嶼におけるコガネムシ上科の分布ノート 7. 大神島 (宮古諸島) 2016 年の記録. 鯉角通信, (34): 27-30.
- 楠井善久, 2017b. 琉球列島の小島嶼におけるコガネムシ上科の分布ノート 8. 伊良部島と下地島 (宮古諸島) における, 伊良部大橋開通以前の記録. 鯉角通信, (35): 56-64.
- 楠井善久, 2018a. 琉球列島の小島嶼におけるコガネムシ上科の分布ノート 9. 竹富島. 鯉角通信, (37): 19-24.
- 楠井善久, 2018b. 琉球列島の小島嶼におけるコガネムシ上科の分布ノート 11. 小浜島. 鯉角通信, (37): 31-35.
- 藤岡昌介, 2001. 日本産コガネムシ上科総目録. Kogane, Tokyo, Supplement, (1): 1-293.
- 細谷忠嗣・土居朋嵩・横川忠司・棚橋薫彦, 2011. 吐噶喇列島 2009 年調査で採集されたコガネムシ上科甲虫. 鯉角通信, (22): 25-36.
- 細谷忠嗣・棚橋薫彦・村井悠孔・藏満司夢・小長谷達郎, 2016. トカラ列島 2010 年調査で採集されたコガネムシ上科甲虫. 鯉角通信, (32): 33-42.

(金子直樹 243-0034 厚木市船子 1737
 東京農業大学昆虫学研究室)
 (吉武 啓 901-0336 糸満市真壁 820
 (国研) 農研機構 九州沖縄農業研究センター
 (糸満駐在))

【短報】屋久島におけるオキナワマダラホソカタムシの記録

オキナワマダラホソカタムシ *Trachypolis okinawensis* Nakane, 1991 は, 沖縄県の名護岳で採集された個体に基づき記載された種である (中根, 1991). 本種はトカラ列島・奄美大島・沖縄島・久米島・石垣島・与那国島など南の島々に分布するが, これまでに屋久島からの記録はないようである (久保田, 2012; 青木, 2017). 筆者は屋久島において本種を採集しているため, 以下に報告する.

1♂ (図 1), 鹿児島県熊毛郡 (屋久島) 屋久島町小瀬田林道, 21. IX. 2018, 筆者採集・保管.

筆者は夜間, 腕ほどの太さの広葉樹枯死木のピーティングにより本種を採集した. 採集時には屋久

島にも分布するマダラホソカタムシ *T. variegata* (Sharp, 1885) が採れたと思っていたが, 帰宅後に実体顕微鏡下で確認したところ, オキナワマダラホソカタムシであった. 本種は前胸背に凹凸がなくなだらかで, 上翅の黒毛塊は基部に近い対のみであることなどからマダラホソカタムシと区別できる (中根, 1991; 青木, 2013). ♂交尾器は側片が先端に向かって単純にすぼまり, 内側に湾曲しない. 中央片は太く, その先端は側片の先端近くにまで達する (図 2). マダラホソカタムシとオキナワマダラホソカタムシの分布の境界線は屋久島とトカラ列島の間に位置していたが, 今回の記録により屋久島において両種の分布が重なることが判明した. 両種は大変よく似た種であるので, 同島において従来マダラホソカタムシとして同定されてきたものの中に, オキナワマダラホソカタムシが含まれている可能性も少なくないと思われる.

本種は沖縄本島において行われた調査により, 成虫の発生時期が秋から春であることが判明している (榎原ら, 2009). 屋久島の平均気温は沖縄島よりもやや低いが, 屋久島においてもおおよそ秋頃に新成虫が出て, 暖くなる春季には採集される個体数が増すかもしれない.

引用文献

- 青木淳一, 2013. ホソカタムシの誘惑 [第 2 版]. 211 pp. 東海大学出版会, 神奈川.
- 青木淳一, 2017. いわゆるホソカタムシ類の所属変更と新しい種リスト. さやばねニューシリーズ, (28): 1-9.
- 久保田義則, 2012. 屋久島のホソカタムシ. SATSUMA, 62 (148): 203-217.
- 榎原 寛・伊禮英毅・宮城 健・安里 修, 2009. オキナワマダラホソカタムシの発生時期. 甲虫ニュース, (165): 15-18.
- 中根猛彦, 1991. 日本の雑甲虫覚え書 7. 北九州の昆蟲, 38(1): 1-9, 第 1 図版.

(中野文尊 501-3154 岐阜市岩田東 3-200)

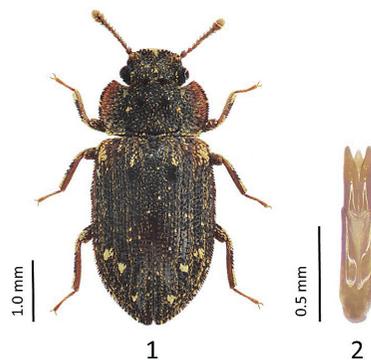


図 1. オキナワマダラホソカタムシ.
 図 2. オキナワマダラホソカタムシの♂交尾器 (背面).